



## ★★外国語(5・6年生)・外国語活動(3・4年生)★★★★★★★★★★

～阿部久美先生、ノーティア・サーモン先生、渡邊靖乃先生～

令和2年度から新学習指導要領が完全実施となり、5・6年生は週あたり2時間の「外国語」、3・4年生は週あたり1時間の「外国語活動」が必修となります。本校では、本年度から先行実施しています。「外国語」は、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる力を育むことを目標としています。それに対して「外国語活動」は、聞くこと、話すことを中心にコミュニケーションをはかる素地を育むことを目標としています。



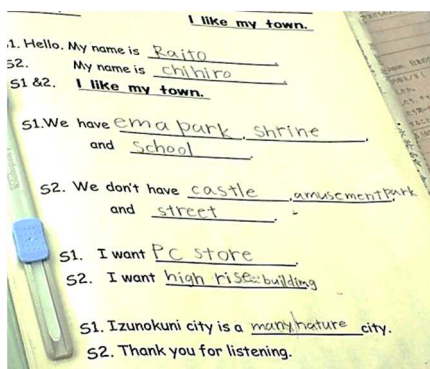
左の写真は11月4日の阿部先生とノーティア先生による4年生の外国語活動の授業です。黒板にアルファベットの順番になるように、一人一人が並べていきます。

「v」「x」「y」「w」「z」「ちがうよ」「vの次はwだよ」とみんなで順番を学んでいきます。



その後、「a b cの歌」を楽しく歌います。また、テキストに書かれたアルファベットの5つにおはじきを置きます。ノーティア先生がアルファベットを書いてあるカードを一枚選んで読み上げます。そのアルファベットの上にあったおはじきははずしていきます。何度か繰り返し、おはじきが残った人にはスタンプがもらえます。こうした活動をしながら、「G(ジー)」と「Z(ズィー)」、「B(ビィー)」と「V(ヴィィー)」など正しい発音を耳に覚え、話せるようにしています。★★

6年生の外国語の授業です。11月13日(水)は阿部先生と渡邊先生が、翌日の14日(木)は阿部先生とノーティア先生が授業を行い、「伊豆の国市にあるもの、ないもの、欲しいもの」という課題に取り組んでいました。



13日には、伊豆の国市にあるもの、ないもの、欲しいものについてペアで考えて原稿をつくりました。あるペアでは、「We have Ema park, shrine and school.」「We don't have castle, amusement park and street(通り).」「I want PC store.」「I want high rise building(高層ビル).」と相談して書いていました。様々なものを英語でなんて言うかは、テキストを参考にします。完成した原稿に合わせて、ペアの掛け合いの練習をしました。

14日には、一ペアずつ発表を行っていきました。中には「I want airport.」「I want LaLaport.」などもありました。できたらすごいですね。

このようにして、native speakerの3人の先生の発音に触れ、指導してもらう中で、身近なものを生かして外国語に親しみながら、聞くこと・読むこと・話すこと・書くことの学習を進めています。



★★★★★**学習課題「ウォールポケットをつくろう」**★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

～**6年1組家庭科：市川幸子先生**～

家庭科は、5・6年生で学びます。衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、生活をよりよくしようと工夫する力を育むことを目標としています。

ウォールポケットの仕上げの段階です。黒板には、①かえしぬい ②美しく と書か



れていました。「かえしぬい」は丈夫さを求めています。「美しく」は家庭科的に細かく仕上げる、つまり、今まで学んできた刺しゅうやクロスステッチなどぬい方のバリエーションをうまく利用しましょうということ です。そして、市川先生は、もう一つ「機能性」の工夫も求めています。



そこでKさんの作品を取り上げ、「ポケットの部分の真ん中にボタンを付けてあります。このボタン1つで大きなポケットにもなるし、小さくもなります。かわいいワンポイントで使えるポケットにしています。それが家庭科で大事なことですよ。」と価値づけて他の子どもたちに紹介しました。



これを見て、自分もそうしてみようとボタンを付けた子もいますが、他にも様々なアイデアをしていました。左右の動物は帽子の色や形が違いますが、それに合わせて刺しゅうの仕方も変えています。また、つるすための棒をあえて布に巻き付けずに毛糸を巻いて固定し、オリジナリティを出している子もいました。

それぞれの子どもが、実際に壁に掛けて使う場面を想定し、美しく、丈夫で、しかも機能的な作品を目標にウォールポケットを製作していました。

家庭科の授業を通して、生活をよりよくしようと工夫する力が確かに育まれています。

★★★★★**「本は心のごはんです」**★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

～**学校司書：安富香織先生**～

図書室は、20分休みや昼休みになると子どもがたくさん来ます。そこで読書する子、本を探して借りに来る子、静かに時間が過ぎていきます。安富先生は、新しい本を購入して紹介してくれたり、季節に合った本の紹介コーナーをデコレーションしてくれたり、子どもたちが図書室に入りやすい雰囲気づくりを大切にしています。また、読書が好きになる工夫をいつもしています。各学年の必読書をすべて読み終わると賞状がもらえ、名前が掲示されます。伊豆の国市おすすめの本を読み終わると、完読賞と書かれたしおりがもらえます。



秋の読書週間では「読書郵便」といって、自分が読んだ本のよさや楽しさを書いて、それを自分の友だちに紹介するコーナーを設けていました。どの読書郵便も、読んだ時のおもしろさが伝わってきました。「本は心のごはんです。」これからもたくさん読みましょう。



読書数が多い子の掲示を作っているところ